# 児童に対する性暴力と児童性的虐待素材（CSAM）：スペインと日本における現状と対策

昨今、日本においても子どもを対象とした盗撮やディープフェイク等の問題が様々報道されています。児童ポルノ法や撮影罪があるとはいえ、新しい犯罪の現状に法制度が追いついていない状況があると考えられます。今回、スペインで児童に対する性暴力と児童性的虐待素材の問題に取り組んできた Virginia Soldino 博士を招き、スペインの現状と加害者への対応を学び、日本のこれからを考えます。




日時：2026年3月18日（水）18:30–20:30
会場：上智大学四ツ谷キャンパス 6号館4階405教室
参加費：無料
申込：https://forms.office.com/r/xUt7QLcV88
主催：上智大学総合人間科学部心理学科
共催：北海道大学大学院教育学研究院子ども発達臨床研究センター

【基調講演】

**Dr. Virginia Soldino Garmendia （Universitat de València）**

Child Sexual Abuse Material in Spain:
Legal Definitions, Criminal Justice Responses, and Prevention Efforts

【ショートレクチャーおよびシンポジウム】

Dr.Virginia Soldino Garmendia

辻麻梨子氏（ジャーナリスト）「日本における児童性的虐待素材の現状」

加藤弘通氏（北海道大学）
「日本の学校いじめにおける性的被害の現状と対応に関する予備的検討」

齋藤梓氏（上智大学）「日本における児童への性暴力ー被害者のトラウマと法制度ー」
※逐次通訳あり